



Handwritten characters in black ink, possibly a title or identifier, located in the top left corner of the book cover.

3526
2-1



多
3526
1-2

法華帖一のふの巻中 無名氏と云うた
條にひびく云傳へたる筆者の名あり
を名に記して初後者のさくめきり

上巻の條

あやしのまきしころのこほを
きめつあそてふち
ゆき

ようあうちう秋をのいふや
るあしをすうわさわ
秋をくをほくあ
志のいあうをほくあ
はくくれむとさうせ

原原佐理卿

後原良經公

小野道風朝臣

源俊朝朝臣

紀實朝臣

後原朝臣

藤原法師

さうま書者やきもる程も度
難まらううさやれをれ

源信朝臣
藤原行成卿

下の巻乃條

たうらううれれみまう

以下十四首 行成卿

証雪

以下廿三首 公任卿

磐城山立越来益砥崎許

以下廿八首 俊朝卿

あわきうれてうんじ

以下廿四首 光俊卿

うらほくのゆけまふ所

以下廿四首 宗尊親王

以下巻の上より一首元暦前紫杉寫

衆籟曉興林頂老群

以下廿三首 無名氏

かすれ純れつとそ

以下五首 佐理卿

浪華帖假名卷上

竹窓 森川世黄摹

無名氏

あな兒の字まらうのうたあそそ

ふい 梅 やらま

花梅

うはう梅 棟

ひさうの花

うら梅

その花

いさう花

かそのよの花

うまうの花

さうあの花



うつて

ゆきの花

いとやぶら

あつしの毛

うらやま

ゆきの花

ゆきの花

あまの雪のさうしてふの花といふ
うたのあはれをあらはせよ

梅

あまの梅のさうしてふの花といふ
うたのあはれをあらはせよ

やぶら

あまの梅のさうしてふの花といふ
うたのあはれをあらはせよ

花梅

あまの梅のさうしてふの花といふ
うたのあはれをあらはせよ

あまは梅

あまの梅のさうしてふの花といふ
うたのあはれをあらはせよ

あまは梅

うきをひきの花よらん位本 影をさすは
とわをけくまむとせ次

大梅の屯

あつさゆと春のつるさうらう梅さるもさき世度
みまあわさるゝのらん

うきをひき

あつさゆと春のつるさうらう梅さるもさき世度
みまあわさるゝのらん

影の屯

春さる位 伊予の影の屯

なわをさるゝの屯

影の屯

は影の時影さるゝの屯
なわをさるゝの屯

伊予の影

なわをさるゝの屯

なわをさるゝの屯

影の屯

なわをさるゝの屯

明もてあつしなめんもあつしなめん

山道者たむ

ゆたつてあつしなめんもあつしなめん
ゆたつてあつしなめんもあつしなめん

山道者たむ

ゆたつてあつしなめん

山道者たむ

あつしなめんもあつしなめん

あつしなめんもあつしなめん

あつしなめんもあつしなめん

山道者たむ

あつしなめんもあつしなめん

山道者たむ

あつしなめんもあつしなめん

山道者たむ

君を志しつゝししのとくを思ふに
そあまたまほしれ度

うまゝの花

水のうらやまを思ふに
あまのこ

花を思ふに
あまのこ

うまゝの花

伴証婦も思ふに
あまのこ
あまのこ

あまのこ

うまゝの花
あまのこ
あまのこ

行成俣

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

あまのこ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

والتواضع والافتقار

والله اعلم بالصواب

~~~~~

والله اعلم بالصواب

والله اعلم بالصواب

والله اعلم بالصواب

~~~~~

والله اعلم بالصواب

والله اعلم بالصواب

~~~~~

والله اعلم بالصواب

あはゆきのさきゆくたふらむて
わきのさきのさきゆくたふらむ

よのさきゆくたふらむて
さきのさきゆくたふらむ

とてゆくたふらむのさきゆくたふらむ
さきのさきゆくたふらむ

行経郷

あはゆきのさきゆくたふらむて
わきのさきのさきゆくたふらむ

よのさきゆくたふらむて
さきのさきゆくたふらむ

あはゆきのさきゆくたふらむて
わきのさきのさきゆくたふらむ

とらゆるおれをまはりてこゝろあも春くれをよ
ひや—ほのいろよはあつこま
われきてもひさしくひさしくハニーのよほし
乃て免まはしよきあわしん
あまのまられあしつゆのおひあひはねに
るはきふいさのほろ
おらあまははことろあつ—うりよくれをまは
し—うりよきしよきしつれ
きくれおれおれしつれしつれとらのれと
よきしつれしつれしつれ

あのまに—あつれおのこきれあはしあ
あはし—あしよのほしよしつれ
おらあしよのほしつれ—草おいのまは
ハニーのよほしつれ
おらあしよのほしつれ—よほしのほし
とらおのほしつれ
われしつれま—しつれしつれ—ひまの
あはしおれしつれまはあしつれ
このまのほしつれのほしつれしつれ
おらあしよのほしつれ

西行法師

別當

あまのこころをいかに
おぼやかしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに

あまのこころをいかに
おぼやかしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに

あまのこころをいかに
おぼやかしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに

あまのこころをいかに
おぼやかしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに

あまのこころをいかに
おぼやかしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに

あまのこころをいかに
おぼやかしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに
まはるるをいかに
わづらひしむるに

比乳母

あまのこゝろにまゐるゝはたのちか
の井のちかあまのこゝろにまゐるゝ
まゐるゝ

う

平定又初夜

あまのこゝろにまゐるゝはたのちか
の井のちかあまのこゝろにまゐるゝ
まゐるゝ

う

あまのこゝろにまゐるゝはたのちか
の井のちかあまのこゝろにまゐるゝ
まゐるゝ

う

あまのこゝろにまゐるゝはたのちか
の井のちかあまのこゝろにまゐるゝ
まゐるゝ

う

あまのこゝろにまゐるゝはたのちか
の井のちかあまのこゝろにまゐるゝ
まゐるゝ

う

あまのこゝろにまゐるゝはたのちか
の井のちかあまのこゝろにまゐるゝ
まゐるゝ

う

やまのこころのむかし
けふもあはれなるは
こころのむかし
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは
あはれなるは

忠家卿

皇太后宮歌合
東三條院沙將

題
瞿麦

歌人
兼盛 経宣

東三條院七月七日皇太后宮
とあるをいへり
右の御將公は、
右の御將のおもと

あまのほほろりたれせしあまらふあめ
はらまのこあしきくわし

あまのほほろりたれせしあまらふあめ
そのいろみきあまらふあまらふ

おれあまらふあまらふあまらふ
あまらふあまらふあまらふあまらふ
あまらふあまらふあまらふあまらふ

あまらふあまらふあまらふあまらふ
あまらふあまらふあまらふあまらふ
あまらふあまらふあまらふあまらふ

あまらふあまらふあまらふあまらふ

あまらふあまらふあまらふあまらふ
あまらふあまらふあまらふあまらふ

あまらふあまらふあまらふあまらふ
あまらふあまらふあまらふあまらふ

あまらふあまらふあまらふあまらふ
あまらふあまらふあまらふあまらふ

あまらふあまらふあまらふあまらふ
あまらふあまらふあまらふあまらふ

あまらふあまらふあまらふあまらふ

あまのついでにうらなひをいふ

た

あまのついでにうらなひをいふ

左

あまのついでにうらなひをいふ

あまのついでにうらなひをいふ

平らしく ちりぢりな 風景に 心を さらけ 出す

三番 野記

左 腰

史丈夫成時

木の葉の影に 揺らぐ 光の 影を みる こと かな
 土手 さんみまの 影を みる こと かな
右

 上総 丈夫 指 情
 かなめに かなめ あり かなめ あり かなめ あり
 かなめに かなめ あり かなめ あり かなめ あり

備政 なる の こと の 案 の こと
 述べ 懐 の こと かなめ

一 備 平 記

いかに かくし かくし かくし かくし かくし かくし かくし かくし

心 懸 故 入 道 記 事

いかに かくし かくし かくし かくし かくし かくし かくし かくし

いかに かくし かくし かくし かくし かくし かくし かくし かくし

俊忠卿

善天卷

一番

左

福い

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

あ、えー

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

無名氏

ちりめつあそびしもの

いかりにこめいし

或人よりあつたにねもせんなるを  
にきてみまうりるはととの  
むすめゆあまのれ、のせんなる  
とらせとしてよみゆけ  
むすめいのかんたのいあ  
みゆけ

Dear Sir  
I have the honor to acknowledge  
the receipt of your letter of the  
10th inst. in relation to the  
matter of the ...  
I am sorry to hear that you  
are unable to attend to the  
business of the ...  
I will be glad to hear from you  
again when you are able to  
do so.

Yours faithfully,  
John D. ...  
I have the honor to acknowledge  
the receipt of your letter of the  
10th inst. in relation to the  
matter of the ...  
I am sorry to hear that you  
are unable to attend to the  
business of the ...  
I will be glad to hear from you  
again when you are able to  
do so.

きくしいおええのうはおんをまもあいま  
ままてしうのまもるるをいしんてんてん

そのあえ

おのあえ

おのあえ

おのあえ

おのあえ

おのあえ

おのあえ

おのあえ

おのあえ

おのあえ

おのあえ

おのあえ  
おのあえ

おのあえ  
おのあえ

おのあえ

おのあえ  
おのあえ  
おのあえ

伊勢

さつ、来者たはしむる理は  
をく支ぬまじり此河の聲を聞か

懐人ふら

五月待をゆ橋の番をかたむ  
か一人若ふてれ家越はる

新のぞらうやまをたはれおれぬ  
いふは若もいおれぬ

まらあやせきふいおれぬ  
いふあまのむやむら

あつなむらむらむらむら  
あまのむらむらむら

あまのむらむらむらむら



あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

あはれなる御心  
あはれなる御心

いふとやうにあらまてのまきとせ

しらぬらまらるよの月まきよ

おもしろくまきしるまらる

